

# 授業の導入でひな形学習カード配信

■校種・学年：小学校5学年以上

■活用の概要：

グループで協働学習を行うときの準備について、以下のフローが児童生徒に定着している。

一人一人が見通しをもって授業に取り組めるようになってきた。

- ① 授業の導入時にプレゼンテーションソフトで作成した学習カードのひな形を配信。
- ② 各班の代表者1名がひな形を保存し、班員に共有設定。
- ③ 自動的に班員に招待メールを送信。
- ④ メールを受信した班員はプレゼンテーションソフトを開き、共有されていることを確認。
- ⑤ 共同編集しながら話し合いを進める。

■準備するもの

・プレゼンテーションソフト（OS標準）→共有設定

プレゼンテーションソフトで  
作成した学習カードを配信

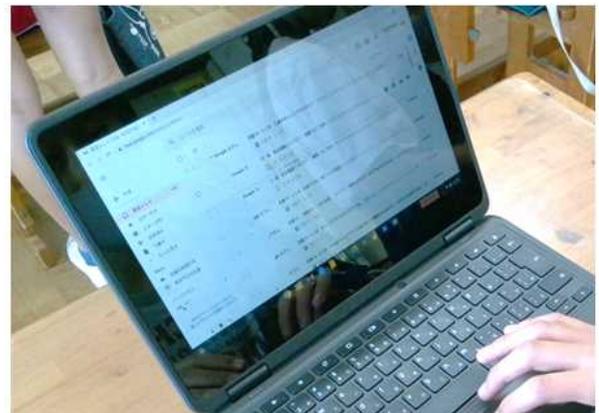
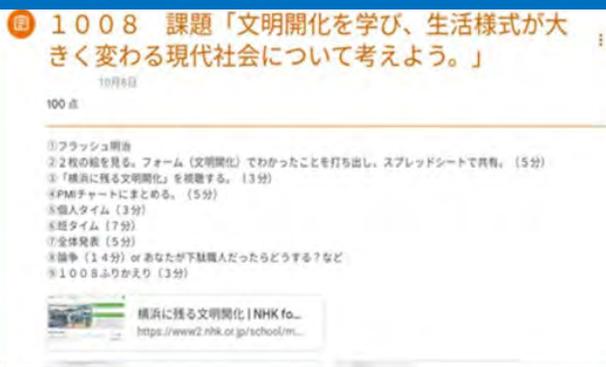


ファイルの  
共有設定

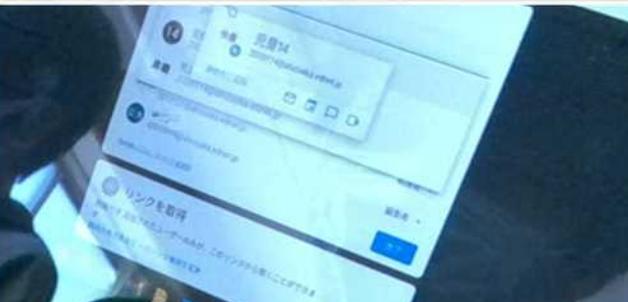


役割分担・共同作業で  
グループ活動のDX

本時の課題とともにプレゼンテーションソフトで作成した学習カードのひな形を配信。



メールに添付されたプレゼンテーションソフトを開くと、共同編集可能な設定になっている。



班の代表者がテンプレートを保存し、班員との共有設定を行うと、班員にメールが送信される。

## ■アドバイザーからのコメント

ワークシートとして活用するいくつかのテンプレートを用意しておき、児童生徒がそれをコピーして様々な場面で活用することを通して、ICTは学習を効率化する道具であることを理解していきます。

また、教師が一つ一つ作るのではなく、児童生徒が作ることで、学習にも教師の働き方にも効果的です。

# 付箋操作のオンライン化

■校種・学年 : 小学校5 学年以上

■活用の概要 :

中学校1年生の実践。外国の50年ほどの貿易の変化について教科書から情報を収集し、生徒が3人グループで情報の整理を行った。

クラウド上のホワイトボードで付箋を操作する作業を共同編集しながら、情報を整理したり、様々な情報から分かったことを書き込んだりした。

■準備するもの

・デジタルホワイトボードソフト (OS標準)

模造紙上の付箋操作を  
オンライン化



教材準備の省力化  
+  
思考過程のビジュアル化



昔と今を比べながら学習を進めることで、「アジアとの結びつきが強くなっている」という概念的知識を獲得していく様子が見られた。整理分析の場面では、情報の分け方についてグループで議論するなど協働的に学ばせることができた。

## ■アドバイザーからのコメント

共同編集をすることができるよさを生かし、協力して情報を集め、整理・分析する経験をさせることにより、知識は人から与えてもらうものではなく、自分で獲得するものだということを、活動を通して体験することができました。

# アウトプットを共有して互いのよさを発見

■ 校種・学年 : 小学校以上

■ 活用の概要 :

俳句に親しむ学習における活用事例。

- ① 季節の情景を詠った俳句に親しむ。
- ② 様々な俳句の体裁を参考にしながら、俳句をつくる。
- ③ 一人一人が共有化された表計算シートに入力。 → 相互にアドバイス。
- ④ アドバイスを基に一人一人が共有化されたプレゼンテーションに清書。
- ⑤ 互いの作品を鑑賞。 → 相互にコメント。

■ 準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)
- ・表計算ソフト (OS標準)

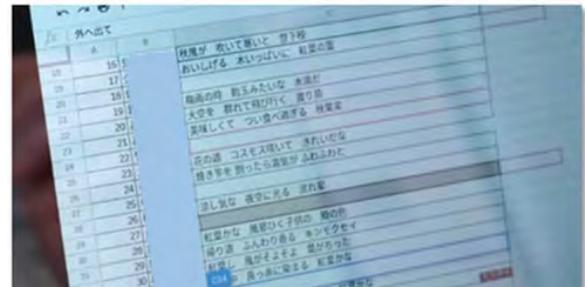
俳句を表計算シートやプレゼンテーションで即時共有



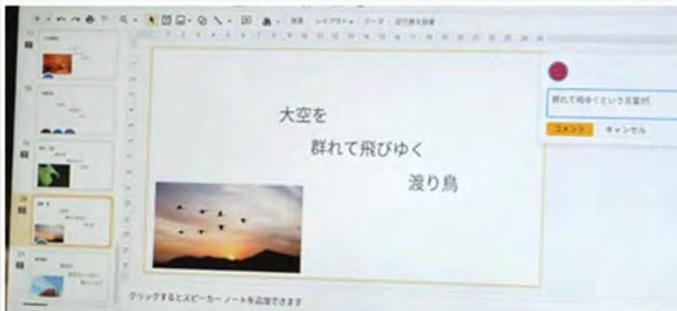
・友達の作品から学ぶ  
・互いにアドバイスする



短い時間で多くの俳句に親しむ学び



考えた俳句を共有化された表計算ソフトに入力し、課題に沿って互いにアドバイスを入力し合う。



アドバイスを踏まえて言葉を練り直し、共有化されたプレゼンテーションソフトに俳句を入力する。また、俳句の情景に合う画像を貼り付けて、一人一人が作品に仕上げる。最後にコメント機能で相互評価を行った。

## ■ アドバイザーからのコメント

各種ソフトの共有機能のメリットがよく表れた実践です。

これまでは授業時間の中で、作った俳句を共有したり相互評価したりする活動が十分ではなかったケースも多かったのではないのでしょうか。クラウド上でアウトプットしたものを共有化することにより、友達の作品を参考にしたり、アドバイスし合ったりする中で、たくさんの俳句に触れ親しむことができます。そうすることで書くことに苦手意識のあった児童生徒も意欲的に取り組むことができます。



# チャット機能で情報共有

■校種・学年 : 小学校3学年以上

■活用の概要 :

チャット機能を使わせるべきかどうか最初は迷っていたが、児童生徒と使い方やルールについて話し合い、活用を始めたところ効果が見られた。

- 教師が内容を確認できる状態にするために、教師を含めてグループをつくるように指導する。
- 「勉強会」のグループを作って、授業中に教え合いが始まった。
- 調べたウェブサイトのURLをコピーして、チャットに貼り付け、情報共有を行っている。
- 活動が進んでいない友達がいると、助け合う様子が多くみられるようになった。
- 作業途中でもどんどん情報交換をして、児童生徒の考えが広がっている。

教師やグループ全員に見えている場なので、友達とのおしゃべりに使うことなく、自分たちの学習をさらに深めようと活用する場面が徐々に増えてきている。このように、学習に有効な使い方している様子をクラスで共有し、互いによりよいコミュニケーションを図っていくための使い方として価値付けている。

もちろん、授業中であるかどうかにかかわらず、オンライン上のマナーやコミュニケーションのあり方については、児童生徒と一緒に考え、適切な指導をしていくことも必要である。

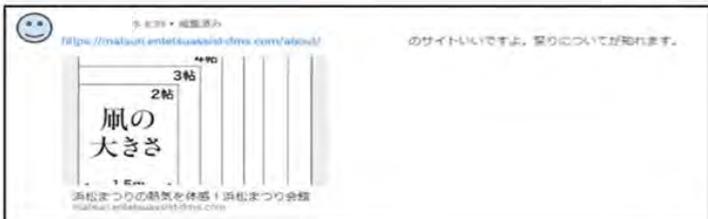
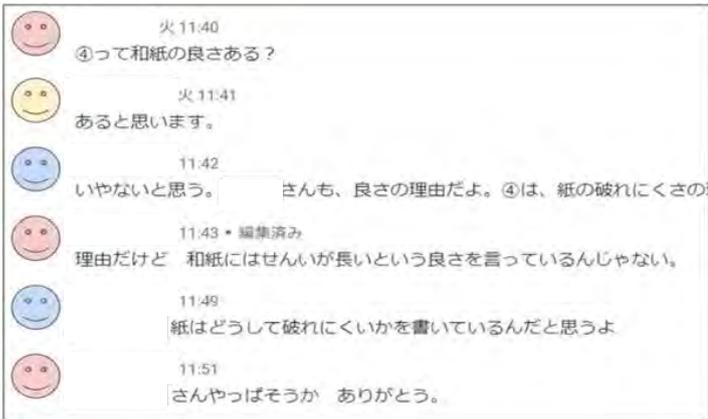
■準備するもの

- ・チャット機能（OS標準）

チャット機能 + 使い方・ルールを考えさせる指導

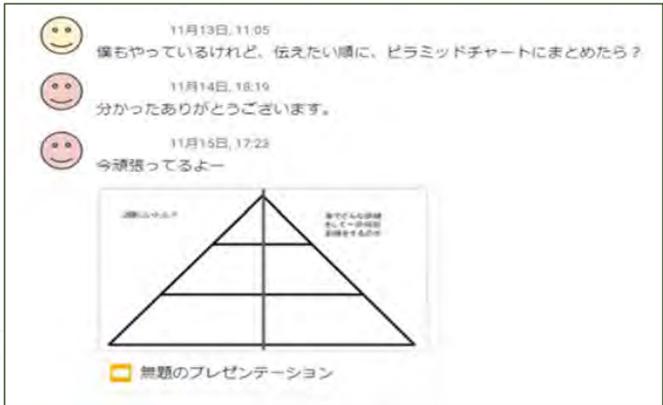


自発的な教え合い学び合い



調べ学習の際、児童生徒は有益な情報を見付けると、その情報を友達に共有している。調べたサイトのURLをコピーしてチャットに貼り付けることも自然とできるようになった。

自分の作業途中のシートをチャットに載せ、友達からのコメントを参考に活動を進めている様子。



■アドバイザーからのコメント

チャット機能を有効に使った学び合いの事例です。これまで、伝える相手の席までいかないとコミュニケーションをとることが難しかったのですが、チャット機能を使うことで児童生徒同士がすぐにコミュニケーションをとることができます。WebサイトのURLのように口頭で伝えることが難しい内容であっても、チャット機能を使えば情報のやりとりを簡単に行うことができました。

また、チャット上のやりとりで直接参加しなくても、友達の書き込みを眺めることで、自分にとって有益な情報があれば適宜活用することができています。

## 共同編集で学習のまとめを作成

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

プレゼンテーションを隣の児童生徒と共有化し、理科の実験の結果を二人で協力してプレゼンテーションにまとめる実践。

課題、方法、結果、まとめの4枚のプレゼンテーションを作成し、他のグループと伝え合うことをあらかじめ伝えているので、どの児童生徒も実験に集中して取り組んでいた。

実験の様子を振り返ったり、実験から分かったことをどのように表現すればよいか相談したりして、二人で対話しながら作成するので、短時間で質の高い学習となった。

■準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)

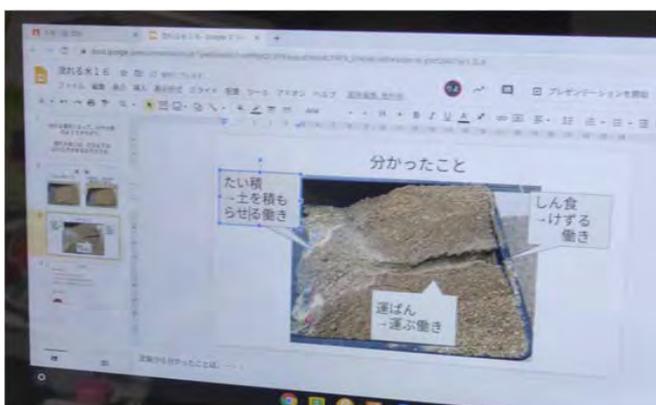
「実験のまとめ」用のひな形プレゼンテーションを配信



隣の児童生徒とペアになって共同編集



完成後は他のペアと共有



導入初期は、あらかじめ写真や吹き出しの枠などの入ったひな形プレゼンテーションを教師が用意した。慣れてきたら児童生徒が自分で写真を挿入して吹き出しを付けられるように指導。

完成したスライドを使って、他のグループと実験のまとめを共有。少人数でつくることで、繰り返し発表（表現）する経験を積むことができる。

### ■アドバイザーからのコメント

このような活動を繰り返すことで、ICT端末やソフトの操作スキル、相手に分かりやすく伝えるためのまとめ方が徐々に身に付いてきます。また、二人で対話しながら実験の様子を振り返ったり、実験から分かったことを協力してまとめたりするので、短時間で質の高い活動になりました。

こうした力は、他の教科や様々な学校生活にも転用可能です。

# コメント機能を活用した学び合いの活性化

■校種・学年 : 小学校3 学年以上

■活用の概要 :

自分の学習計画を文書作成ソフトで作成し、グループで共有。その後、コメント機能を活用して相互に良いところや質問、改善案を入力し合う。

自分の考えた計画についてたくさんの意見を短時間で集約することができるので、児童生徒同士のディスカッションも深まっていた。

■準備するもの

- ・文書作成ソフト（OS標準）+コメント機能

文書作成ソフトで  
瞬時に全員と共有

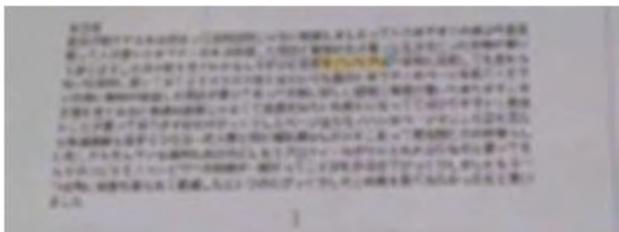


コメント機能で  
効率的な意見集約



ディスカッション  
の活性化

文書作成ソフトで自分の考えを入力し、グループで共有。その後、主体的に相互の良いところや質問、改善案をコメントとして入力し合っている。わずかな時間で効率的な意見集約ができる。



集まったコメントを基にして、今後どう改善していくかなどについては、直接ディスカッションを行う。多くのコメントを基にしているので、ディスカッションの内容も深いものになる。

## ■アドバイザーからのコメント

自分の考えを口頭で発表した後、友達から順番にコメントを述べてもらう従来の方法では、そのやり取りに時間を取られることになり、後の議論に十分な時間を確保出来ないことがありました。

まずはオンライン上でコメントを効率的に集め、それを踏まえて議論することで、より効率的で活発な議論が期待できます。

# いろいろな意見を出し合って 互いの考えを深めたり広めたりしよう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

学習の課題に沿っていろいろな考えを出し合い、共有する場面。自分の考えを友達に伝える場面では、自分の考えを拡大したり、書き込んだりしながら説明する姿も。

児童生徒が書き込んでいる様子を、デジタルホワイトボードで共有することで、なかなか自分の考えが進まない児童生徒も、友達の考えをヒントに集中して取り組むことができたようだ。

友達の考えに互いに触れる中で、考えを深めたり広げたりすることにつなげたい。

■準備するもの

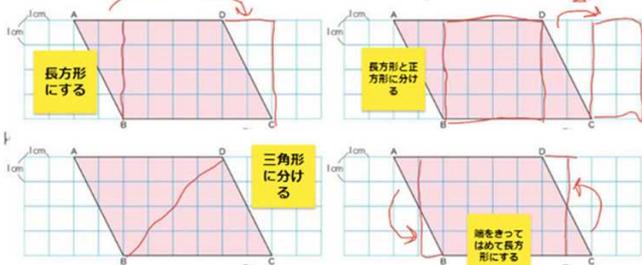
- ・デジタルホワイトボードソフト（OS標準）

デジタルホワイトボードソフトに自分の考えを入力

クラス全員と効率的に考えを共有

つまづいている児童生徒への手立て及び意見共有の効率化

デジタルホワイトボードに教科書の図を貼り付けたワークシートを一人一人に配布しておく。今回は、他の児童生徒のワークシートも見ることができるようにした。



始めは線の手書き入力くらいだったが、慣れてくると付箋に短い説明を入力することができるようになった。説明が追加されることで見た児童生徒も考えを理解しやすくなった。



教師用端末でデジタルホワイトボードをスクリーンに投影し、クラス全体に考えを説明している場面。聞いている児童生徒は、自分の考えが深まったり広がったりした。

自分が考えた解決方法のうち、一番伝えたいものを拡大して書き加えながら隣の児童生徒に説明している様子。隣の児童生徒の表情や考えの変化にも注目したい。



## ■アドバイザーからのコメント

普段質問することが苦手な児童生徒が、クラウドを使うことで簡単に友達の考えを知ることができることもICT端末活用の大きなメリットです。

つまづいている児童がヒントをもらったり、友達の考えに触れて最初の考えを高めることができたり、交流し合う中で新しい考えを生み出すことができたり・・・、といったICT端末を活用するよさを生かしたいものです。

## カレンダーで予定の共有

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

週始めにカレンダーソフトを使って、主に放課後や家庭学習の予定を作成させる。必要に応じて友達同士で共有できるようにしてあるため、一緒に遊ぶ予定を立てたり、家庭学習の計画の立て方などを学び合ったりしている。情報が一気に集約されるイメージをもたせるために有効な取組となった。

■準備するもの：

- ・カレンダーソフト（OS標準）

カレンダーソフトに  
予定を入力



自主学習の予定を  
友達と共有



主体的な  
活用の支援



カレンダーは、担任とそれぞれ2～3人の児童生徒で共有している。6年生にもなると、どれくらい自主学習をしているのか刺激を与え合うこともできる。中には遊びの予定を入れる児童生徒もいる。



予定を共有している画面の様子。

### ■アドバイザーからのコメント

週始めに1週間の予定を作成したり、週末に予定していた計画に対してしっかりと取り組めたのかを振り返ったりすることで、自己調整学習としてのカレンダーの活用になっています。

また、設定次第で友達のカレンダーを見ることもできるので、児童生徒が声を掛け合うなど、互いにコミュニケーションを深めている姿も確認できました。

このような活用を通して、児童生徒は情報や情報技術の特性に触れ自分の生活に生かそうとしています。

# オンラインで学校の外とつながろう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

機会や時間の制約、移動や接触に関わる懸念等、離れているが故にこれまで頻繁に実施することができなかった学校施設外の人々や機関との交流活動。

オンラインでつなぐことにより、簡単に行うことができるようになったため、活動の幅が広がっている。

■準備するもの

・ウェブ会議ソフト (OS標準)

学校施設外にいる人と  
オンラインでつなぐ



時間や場所の  
制約を払拭



教室にしながら  
活動の幅が広がる

朝の会の時間までに、入院して投稿できない児童生徒のICT端末とウェブ会議ソフトを繋いでおく。



他校とオンラインで交流。1人1台のICT端末でつなげることも可能だが、まだ操作に不慣れなため、3人で1台を使って交流している様子。画面共有もまだできないため、作った資料をプリントアウトして紙を見せながら自己紹介をしている。



教室の端末に実物投影機を接続し、広角で教室の様子を映せるようにしている。画面から児童生徒の様子がよく見えるように、朝の会の司会担当の児童生徒は教室の後ろで朝の会を進行している。

## ■アドバイザーからのコメント

教師が操作してオンライン接続する場合は、教師が操作を覚えればよいのですが、児童生徒が自分たちでオンラインにつなげるには、慣れが必要です。

児童生徒の様子を見て、ステップを小さくしながら進めます。他校と交流する前に、練習として、校内の違う教室に移動して友達とオンラインでつなげる機会を用意してもよいでしょう。

# 作成スライドを分担した後で協働的に解決

■校種・学年 : 小学校 5 学年以上

■活用の概要 :

1つのプレゼンテーションスライドをクラス全体で共有し、スライドを1枚ずつグループで分担して作成した。クラウドで同時編集できるように設定しておく、グループ内では対面で話し合いながら1枚のスライドを作り、グループ同士で前後のスライドを見ることでお互いの様子を確認しながら活動することができた。

- ① グループごとに何を分担するのか決める。
- ② プレゼンテーションスライドを全員で共有する。
- ③ どのグループがどのスライドを担当するか確認する。
- ④ グループで話し合いながらスライドを作成する。
- ⑤ クラス全体でスライドを再生し、状況を共有する。

■準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)

学習課題に対して  
作成するスライドを  
クラス内で分担



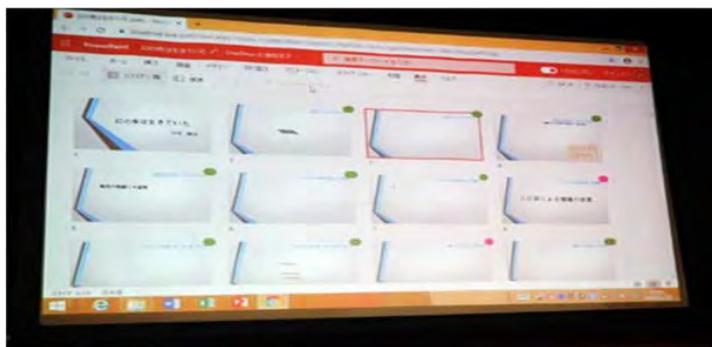
担当するスライドを  
グループで話し合い  
ながら作成



・スライドを全体で共有  
・課題解決に向けた話し合い



割り当てられたスライドをグループで話し合いながら作成している様子。



スクリーン上に各グループに分担したスライドを一覧表示しておくことで、他のグループの活動の様子を把握できるようにしている。



学習のまとめの場面では、クラス全員で作成したスライドを再生し、課題解決に向けた取組の成果を共有。

## ■アドバイザーからのコメント

スライドは、書く場所の分担を明確にしやすいので、多人数での共同作業に向いています。国語や社会で調べたことをまとめる、理科で実験結果をグループごとにまとめるなど、さまざまな教科での活動を実践することができます。班ごとに違う内容に取り組み、あとで相互に見合ったり、つなげたりすることで新しい考えを発見したりし、まとめかたのよさを共有できるようにします。

# 児童会・生徒会活動の共同作業に活用しよう

■校種・学年 : 小学校5 学年以上

■活用の概要 :

児童会・生徒会活動では、企画資料、議事録、広報誌など、さまざまな資料を作成する機会がある。

クラウド上で共有化されたファイルを話し合いながら共同編集を行い、資料を作成することができた。他の意見に配慮して考えたり、補い合ったりしながら資料を作成する姿が見られた。

■準備するもの :

- ・文書作成ソフト (OS標準)
- ・ファイル共有機能

話し合いの際は  
個人のICT端末を持参



相談しながら  
全員で共同編集



話し合いが終わると  
同時に資料完成



話し合いの際には、各自のICT端末を持参。テーマについて相談をしながら必要な情報を全員で共同編集していく。



相談をしながら、それぞれが気付いたことを入力したり、修正をしたりしていくので、話し合いが終わった時には、ほぼ資料が完成している。

## ■アドバイザーからのコメント

今後、授業での活用を進めていくためにも、児童生徒がさまざまな活動の中で、日常的にICT端末を活用していくことが重要です。慣れてくれば、集まって作業を進めるだけでなく、大人のテレワークと同じように、集まらなくても作業を進めることができ、互いに責任をもって、限られた時間でも質の高い活動に結び付けることができると思います。

# グループで話し合ったことを記録しておこう

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

グループ内で話し合いながら、自分たちの考えをまとめていく活動を行う場合、デジタルホワイトボードソフト（クラウド上で共有化されたホワイトボードを同時編集できるもの）より、これまでもグループ活動等で使っていた小型のホワイトボードの方が、児童生徒にとって扱いやすい場合もある。

アナログとデジタルのよさを組み合わせることにより、学習活動を効率化し、その分友達の意見と自分の意見の同じところや異なる点に気付く時間をつくることのできた事例である。

■準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト（OS標準）
- ・カメラ機能（OS標準）

話し合いながら  
グループの考えを  
ホワイトボードに記入



考えを書き込んだ  
ホワイトボードを  
カメラで撮影



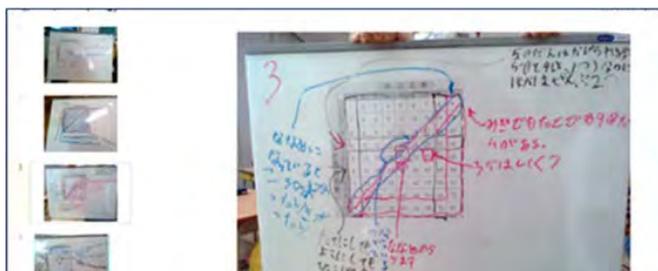
画像を共有化された  
プレゼンテーションソフト  
に貼ってクラス全体で共有



話し合いをしながら、グループ活動用の小型ホワイトボードに自分たちの考えを書き込んでいる様子。



端末のカメラ機能で、自分たちの考えを書き込んだホワイトボードを撮影。



撮影した画像を共有化されたスライドに貼り付ければ、簡単にクラス全体で各グループの考えを共有することができる。

## ■アドバイザーからのコメント

クラウド上のデジタルホワイトボードを使うより、事例の写真にあるようなグループ活動用の小型ホワイトボードの方が扱いやすい場合もあると思います。しかし、扱いやすい反面、書き込んだ内容をそのままの状態でも保存しておくことには適していません。

今回の事例のような方法をとれば、自分の手元で様々な考え方を知ることができたり、後で学習したことを振り返ることができたりと、児童生徒が見たいときにいつでも確認することができます。手元に共有された情報を基に、児童生徒一人一人がよりよい考えにつながられるように指導を組み立てていくことも大切です。

# 「〇〇調べ」をひな形カードで蓄積

■校種・学年：小学校3学年以上

■活用の概要：

家庭学習で調べ学習の課題を出した。

その際、カードのように蓄積していくことができるひな形を配信し、写真や文章のレイアウトの型に合わせて、調べた結果を分かりやすくまとめられるようにした。さらに、同じ型を継続して使用することで、調べた情報の比較がしやすくなった。ある程度の期間同じ型を使用した後は、児童生徒が自分でレイアウトを工夫できるようにした。こうすることで、児童生徒なりに分かりやすさを追求したり、オリジナルの情報を入れたりすることができるようになった。

さらに、児童生徒の工夫あるプレゼンテーションを共有することで、お互いのプレゼンテーションのよさを認め合ったり参考にしたりする様子が見られた。

■準備するもの：

- ・プレゼンテーションソフト（OS標準）

家庭学習で使用するひな形  
プレゼンテーション配信



調べた情報を  
カード風に蓄積



調べ学習への  
意欲向上

歴史上の人物について、その人物像を端的にまとめていくことをねらいとした。型（レイアウト）の使い方について学級全体で確認してから調べ学習を進めていけるようにした。まずは同じ型を使用し、慣れてきたら自分なりにレイアウトを工夫できるようにした。

児童生徒が作成したカードの例

たくさんのカードが集まると、児童生徒から「もっと集めたい。もっと調べたい」という意欲的な声がたくさん上がった。教科書や資料集はもちろん、動画やインターネットなど様々な情報源から調べることができるようにした。

## ■アドバイザーからのコメント

カードの型（レイアウト）を決めて情報を蓄積していくことで、それぞれの情報のつながりを見だしやすくなったり、整理してまとめやすくなったりします。端的にまとめるための工夫として、単なる情報のコピー＆ペーストにならず、情報を取捨選択していけるように、言葉の選び方や抜き出し方を指導することも大切です。加えて、文字の網掛けや、四角囲み、吹き出しといった表現の工夫は、文書作成やプレゼンテーション作成をする際に児童生徒が自分の好みのレイアウトにしていく時にも使える工夫です。

## 「1人1シート」を相互参照

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

1つのファイルの中で「1人1シート」を準備し、児童生徒それぞれが個人のシート（スライド）で作業をする。共同編集機能を使っているため、別シートを開くと他の児童生徒の状況はいつでも参照できるため、協働的な学びへのきっかけにもなる。

友達のシートの記述を参考にしながら自分のシートを工夫したり、再検討したりすることで、考えを深めることができる。

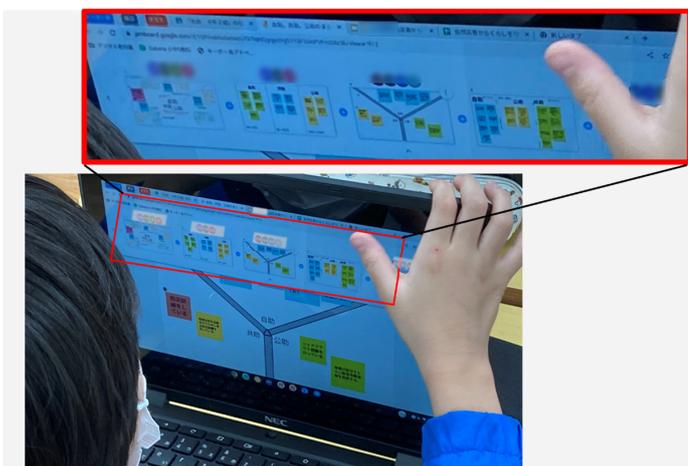
■準備するもの :

・ホワイトボードソフト、プレゼンテーションソフト（OS標準）

共有されているファイルにある自分のシート（スライド）に気付き等を入力する

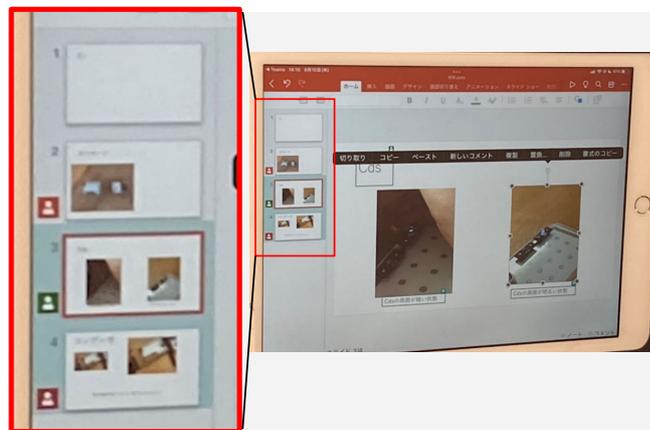


作業内容を相互に参照しながら、自分のシート（スライド）を完成させる



「1人1シート」を割り当てたことにより、自分の取り組む部分が明確になるので、課題を自分事として捉えながら取り組むことができる。共同編集機能を使っているため、友達の考えを参考に、自分のシートをより良くしようとする姿が見られた。

ホワイトボードソフトだけでなく、プレゼンテーションソフトでも同様の実践ができる。良い考えが思い浮かばない場合も、友達の考えからヒントを得て取り組むことができる。



### ■アドバイザーからのコメント

普段は1枚の画用紙にみんなで集まって絵を描くことはあまりありません。1人1枚の画用紙にそれぞれが絵を描きそれを見せ合って交流するように「1人1シート」を捉えると、作成途中からお互いの交流が始まるイメージができると思います。1人1シートで取り組むことで、個性化が図られつつ、協働の促進にもつながります。これも共同編集機能の良さですので、どの教科等でも日常的に取り入れてみてはいかがでしょうか。

## 振り返り活動で相互参照

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

様々な教科等で実践されている「振り返り活動」を、表計算ソフトの共同編集機能を活用して行う。

児童生徒それぞれが個人のセルに入力しながらクラスメートの記述を見られるので、学習内容を確認したり、自分の記述と比較したりできる。そうすることで、学びがより定着したり、深く思考したりすることにつながる。

また、教師は全員の記述を瞬時に把握できるメリットがあり、即座にフィードバックができるなど、指導や学習の改善に活かせる。

汎用的な活用方法なので、共同編集機能やクラウド活用のイメージをつかみやすい事例である。

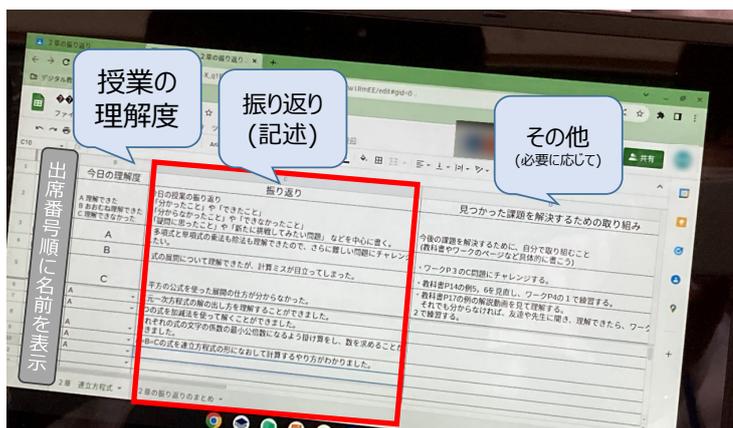
■準備するもの：

- ・表計算ソフト（OS標準）

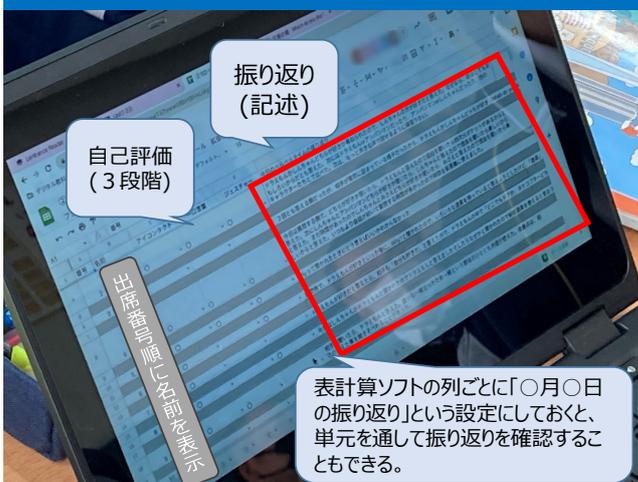
振り返りの観点等を示したファイルを、児童生徒と共有する



記述内容を相互に参照しながら、自分のセルに入力していく



記述による振り返りだけでなく、自己評価をA・B・Cなどの3段階で選択できるように設定することも可能なので、タイピングの習得が十分でない段階でも取り組むことができる。



これまで振り返り活動は実践されてきたが、どんな記述があるかを児童生徒同士が知ろうと思うと、交流するまでわからない場合もあった。

共同編集機能を活用することで、記述の途中も共有できるので、児童生徒にとって学びの助けになる。

### ■アドバイザーからのコメント

事前準備が少なく、どの教科等でも日常的に取り入れやすい事例です。本事例は授業の終末に行う振り返り活動を想定していますが、授業のどの場面でも同じやり方で実践することができます。（参考事例：2-⑪）

友達が書いている内容を参考にできるので、理解がゆっくりな子供にとっても大きな支援になり、授業のポイントを理解するための「足場かけ」になります。

クラウド活用を行う上で、学校全体で取り組めるおすすめの事例です。

## 保護者へのお手紙

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

学級だより用の共用アクセス先を作成。保護者には、アカウントを家庭の端末（スマートフォンやタブレット等）に登録してもらい、これまで紙媒体で配布していた手紙等をオンライン化。

児童生徒の学校生活の様子をタイムリーに配信している。

■準備するもの :

- ・プレゼンテーションソフト（OS標準）
- ・家庭の情報端末のアカウント登録

教材と同様プレゼンテーションを作成・配信

作成・印刷・配布作業からの脱却

タイムリーな情報提供



保護者の端末画面



学級通信をオンライン配信。スマートフォンで読むことを考え、写真メインで構成する。横長のスライドで編集し、PDFにして配信。



### ■アドバイザーからのコメント

私たちは生活の多くの情報をスマートフォンなどの情報端末から収集しています。学級だよりも同じように、スマートフォンでいつでもどこからでも読むことができれば、保護者の方も安心です。

学級だよりに関わらず、学級、学年、学校に関する様々な情報をICT端末で閲覧できることで、シームレスな情報提供が可能となります。

## 学級通信を通じた家庭との情報共有

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

保護者にとって、ICT端末を活用した授業やクラウド活用をイメージすることは難しい。そこで、学級通信を通じて学校での取組を紹介している。

毎日の取組の様子を画像や資料で紹介することにより、児童生徒がICT端末を活用してどのようなことを学習しているのか、どのようなことができるようになったのかについて理解してもらいやすい。

家庭と情報を共有しておくことで、家庭の端末やネットワーク環境の利用を依頼する際にも協力を得やすくなる。

- ① 学校でICT端末やクラウドを活用する。
- ② 学校の取組を学級通信にまとめる。
- ③ 生徒を通じて家庭に配布する。
- ④ 家庭と情報を共有する。

■準備するもの :

・学習支援ソフト、表計算ソフト、学級通信

※家庭と情報共有ができれば「学級通信」の形式にこだわる必要はない。

クラウド環境やICT  
端末を活用する



学級通信で取組を  
具体的に紹介



新しい学習環境について  
家庭と情報を共有

保護者の皆様へ【報告】標準仕様の学習用ソフトを使ってみました！

学習支援ソフト

アンケート機能

表計算ソフト

先週、パソコン室を利用してのアカウントでログインをしました。ネット上の①Classroom(クラスルーム)に入り、②の学校生活のアンケートに答えたり、共通の③自己紹介シートに自己紹介を書いたり、いろいろなことを試してみました。思ったよりも楽しく活動でき、「特別感がある」と言ってくれる生徒もいました。①-③のことについては、お子さんから詳しい話を聞いてみてください。

お子さんには、自宅のパソコンやスマートフォンでもログインして課題をやってみるようになっていますので、ご迷惑をおかけしますが、ご協力いただけたらありがたいです。今後、保護者のみなさまにもアンケートに答えていただいたり、データを共有していただいたりすることがあるかもしれませんが、よろしく願っています。また、気になる点やアイデアなどもあれば、ご連絡いただけたらありがたいです。

学校での様子を学級通信を通じて保護者と共有する。また、家庭の端末やネットワーク環境を使用することもあるので、予め学校での取組を知らせるとともに、協力を依頼する。

### ■アドバイザーからのコメント

ほとんどの保護者は、クラウド環境やICT端末を活用した学習活動を経験したことがありません。そのため、保護者はGIGAスクール構想によって学校の教育活動にどのような変化がもたらされているか、なかなかイメージすることは難しいと考えます。そこで、学級通信等を活用し、学校でどのような取組を行っているのか、活動内容を具体的に紹介することで、保護者の皆さんにも、その趣旨や効果を理解してもらいやすくなります。

# 個人懇談日程の希望調査をオンライン化

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

保護者会などの出欠確認や個人懇談の日程希望調査は、これまで家庭と紙媒体のやりとりによって実施してきたが、一連の事務手続きをオンライン化。

印刷・配布・回収・集計にかかっていた時間を大幅に短縮することができた。

■準備するもの

・アンケート機能→表計算ソフト (OS標準)

アンケート機能による  
各種調査のオンライン化



家庭・学校双方の  
事務手続きの効率化

これまでの「個人懇談希望調査用紙」

アンケートフォームを作成。回答ページのURLは、一斉メールで通知。

学年・組	名前	8月31日 (月)	9月1日 (火)
3年1組		13:30~14:00	
3年1組			16:00~16:30
3年1組		何時でもよい, 14:30~15:00	13:30~14:00
3年1組			16:00~16:30
3年1組			
3年1組			
3年1組			16:00~16:30
3年1組			16:00~16:30
3年1組		15:30~16:00	16:00~16:30
3年1組			
3年1組			
3年1組			
3年1組		14:30~15:00, 15:30~16:00, 16:00~16:30	13:30~14:00
3年1組		何時でもよい	13:30~14:00
3年1組		何時でもよい	13:30~14:00

各家庭からの回答は、自動的に表計算ソフトで集計されるため、希望調整にかかる時間を大幅に削減できる。

## ■アドバイザーからのコメント

保護者もスマートフォン等の情報端末から、都合の良い時間に回答できるので便利です。ただ、しばらくしても回答のない方には再度連絡することや、紙媒体でも配布して、回答を促すことも運用初期には必要であると考えます。

# 懇談会における対面とオンラインのハイブリッド化 (保護者会・各種説明会)

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

対面での実施が困難な場合や、より多くの参加者を得たい場合に、対面とオンラインのハイブリッドで懇談会を実施することに変更。

■準備するもの

- ・ビデオ会議ソフト
- ・プレゼンテーションソフト (OS標準)
- ・アンケート機能→表計算ソフト (OS標準)

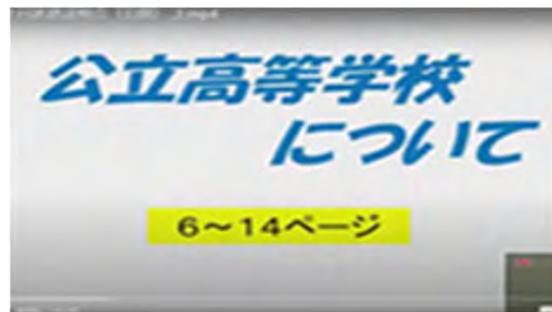
## 懇談会における対面とオンラインのハイブリッド化



参加方法の希望アンケートを実施して対面でもオンラインでも参加できるように調整して懇談会を実施することができた。  
対面とオンラインそれぞれの良さを生かすことができ、従来の懇談会とくらべ、保護者のニーズに合わせて実施できた。



保護者の都合に合わせた  
情報提供が可能に



懇談会終了後に見やすいように編集 (10分ほどに分割) をして、クラウド上のドライブにアップし、そのリンクを一斉メールで保護者に連絡した。分かりにくいところは繰り返して見ることができた。

### ■アドバイザーからのコメント

コロナ禍で、オンライン会議が一般的になりましたので、学校の保護者会・各種説明会も対面だけでなくいろいろな形での実施が必要です。オンライン配信だけでなく、対面も実施しながらのハイブリッドが望ましい姿と考えます。

# プレゼンテーションを動画配信してみよう

■校種・学年 : 小学校5学年以上

■活用の概要 :

対面で授業参観を行うことが難しい中、オンラインで授業を配信しようと考えた。

オンラインで配信する利点は、様々なデータを共有できることである。単に授業の様子を撮影するだけでなく、児童生徒自身が動画を作成し、授業を通じて家庭に配信ができるようにした。

児童生徒は授業で作成した動画が家庭に配信されることを知り、相手意識を高め、配信時間・効果的な配信方法を考えて動画を作成することができた。

■準備するもの :

- ・カメラ機能 (OS標準)
- ・クラウドストレージ (OS標準)

発表の様子を  
動画撮影



クラウド上で  
共有



効果的な配信を目指  
してプレゼンUP



家庭で視聴

学習のまとめを動画で撮影。撮影時間は各班で5分以内とした。カメラの前で身振り手振りを交えながら、プレゼンテーションについて説明する様子を撮影した。失敗を恐れず、時間内で繰り返し撮影できるように励ました。

10月28日 室町文化プレゼン



## ■アドバイザーからのコメント

プレゼンテーションを動画で撮影すると、資料をどのように活用したら伝わりやすいか、どうすれば自分の考えを伝えることができるかなどを、客観的に振り返ることができます。参観のタイミングと合わせたことで、児童生徒も相手意識が高まり、よりよい発表をしようという意欲も高めることができます。

配信後、家族から発表についての感想をもらったり、価値付けてもらったりすることで、児童生徒がさらに自信を付けていくきっかけにもなります。

動画撮影する際には、ICT端末のカメラ機能を使用し、すぐにアップロードできるようにした。



遠方に住んでいる等の理由で普段は授業参観をすることができない家族も、授業の様子を視聴することができ、「子供の姿を身近に感じることができた」と好評であった。簡単に行うことができるため複数回行うことができた。

動画で配信することを意識し、繰り返し映像を見直しながら、よりよいプレゼン作りに向けて主体的に取り組んでいた。

撮影後の動画をグループで見合っ、よいところや改善点を伝え合う場面も多く見られた。



# 欠席連絡をデジタル化

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

アンケート機能を活用し、職員室のPCを通して保護者からの欠席連絡・検温報告を確認できるようになった。デジタル化によって朝の電話による業務の中断が減り、業務に集中できる環境が整えられた。

- ① 保護者にアンケートの入力フォームURLを案内
- ② 保護者がアンケートの入力フォームに回答
- ③ アンケート機能により、担任や養護教諭に電子メール自動送信
- ④ 担任や養護教諭は、その電子メールにより出欠を確認

■準備するもの：

- ・電子メール
- ・アンケート機能
- ・表計算ソフト（OS標準）

欠席連絡を  
デジタル化



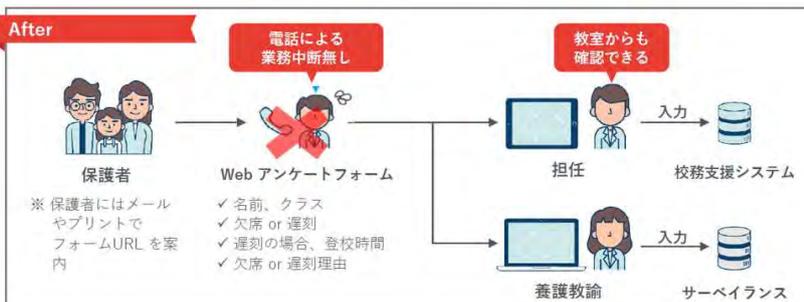
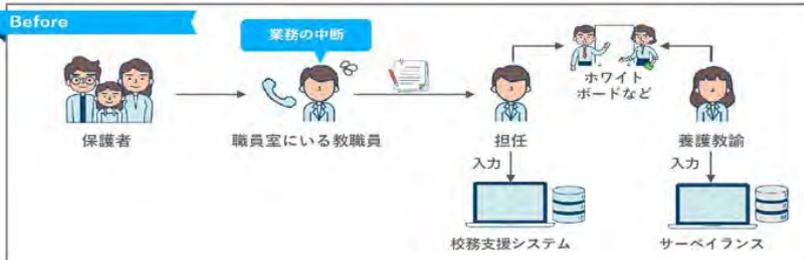
電話による業務  
中断が減る



教室からも確認できる

アンケート機能を活用することにより、名前やクラス名、欠席理由等をデータとして共有することができます。欠席連絡は、教室にいてもICT端末から確認することができます。

## Before & After



## ■アドバイザーからのコメント

欠席連絡がデジタル化されたことで、担任は、学校のどこにいてもICT端末から情報を確認することができます。朝の電話対応が減ることで、登校している児童生徒の様子も余裕をもって見るできるようになります。

また、欠席の情報を蓄積し共有しておくことで、多くの目で児童生徒の様子を把握することにもつながります。

担任や養護教諭など、様々な職員にすぐに情報を共有できることや、自動で出欠情報が集約されることなど、デジタル化の利点を生かした事例です。

「全国の学校における働き方改革事例集」(文部科学省)  
[https://www.mext.go.jp/content/20210330-mxt\\_kouhou01-100002245\\_1.pdf#page=180](https://www.mext.go.jp/content/20210330-mxt_kouhou01-100002245_1.pdf#page=180)

# 個人面談のオンライン化

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

個人面談や三者面談をオンラインでも対応できるようにすることで、保護者が参加方法を選択できるようにした。

保護者が学校以外の場所からでも参加できるようにオンラインの場を設定することで、保護者も学校もより時間などの調整がしやすくなり、保護者と学校双方の負担軽減につながった。

実施に当たっては、事前にオンライン参加の希望の確認を行ったり、当日のアクセス方法を周知したりするなど、あらかじめ丁寧に準備を進めることが重要である。

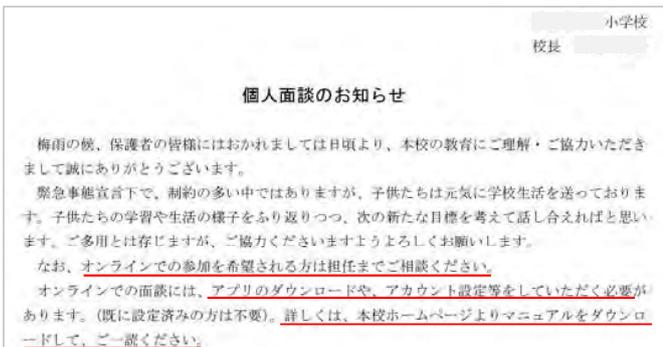
■準備するもの :

- ・ウェブ会議ソフト
- ・学習支援ソフト等

個人面談、三者面談  
などのオンライン化

参加方法の複数設定  
操作方法の事前周知

保護者と学校の  
負担軽減



個人面談についての通知を行う際に、オンラインでの参加方法も選択肢に加えた。オンラインの参加が円滑に行えるよう、学校ホームページを通じてマニュアルの提供を行った。



オンラインで個人面談を実施できるようにすることで、参加者の場所の制約がなくなった。三者面談を学校と自宅と保護者の職場の3か所からつないで実施する事例もあった。



個人面談や三者面談だけでなく、不登校児童生徒の支援やスクールカウンセラーとの面談などにもオンラインの対応が広がり、よりつながりやすくなった。

## ■アドバイザーからのコメント

これまで来校前提で行っていた個人面談や三者面談は、オンラインで実施することによってより参加しやすくなることもあります。

ウェブ会議に不慣れな保護者も想定されるため、実施の際には接続方法の周知や通信テストのほか、第三者に聞かれる心配のない環境を確保するなどの個人情報を取り扱う上での配慮について、丁寧に準備を進める必要があります。

教員の負担軽減になり、保護者がデジタルの有用性について理解することにもつながる、よい取組と言えるでしょう。

## 保護者と共同編集体験

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

1人1台端末の活用を推進するためには、学習（授業）で端末がどのように使われているのか、保護者に理解してもらう必要がある。

そのため、保護者会（学級懇談会）等の機会に、授業で児童生徒が取り組んでいるのと同じように、保護者にも共同編集などを体験してもらう。実際に操作を体験することで具体的なイメージが湧きやすくなるとともに、端末が学習で使われていることに対して保護者の理解を促すことができる。

■準備するもの :

- ・デジタルホワイトボードソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト（OS標準）

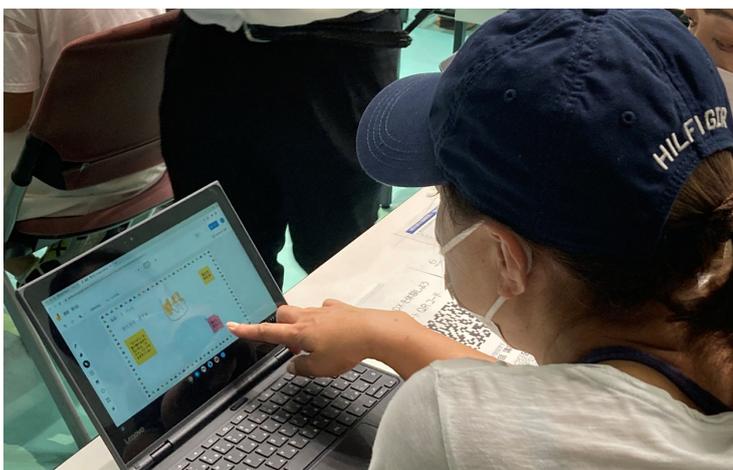
ホワイトボードソフト等を共有する



お題に対して、コメントを付箋等に入力する



記述内容を相互に参照しながら、作成を進める



保護者がどこに入力すればよいかわかるように、あらかじめグループや名前など入力するエリアを示しておく。「自己紹介」「好きな食べ物」「子供の頃によくやった遊び」など、取り組みやすいお題を設定すると保護者も入力しやすい。

適宜、「○枚目を見てください。」などと声かけし、相互参照できる良さを伝えられるようにする。児童生徒も一緒に参加してもらい、保護者と協力して取り組んでもらう方法もある。

※ アカウントの使用については、OSや各自治体のポリシーをご確認ください。



【参考】文部科学省 StuDx Style

・「保護者と共同編集を体験しよう！」

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/29.html>

・「GIGAスクール構想×保護者との連携（山梨大学 准教授 三井一希氏）」

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/321.html>

### ■アドバイザーからのコメント

保護者自身が端末を活用した授業を経験したことがないため、端末を学習で使うイメージが湧かず、不安に思われることがあるかもしれません。家庭学習の際など、保護者に協力してもらう場面はたくさんあるので、まずは実際に体験してもらうなどして、学校の取組を理解してもらう必要があります。子供たちが学校でどんなことをしているかがわかれば安心につながり、家庭学習で前向きな声かけをしてくださるかもしれませんね。

## まずは教員がスキルアップ

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末の活用などGIGAスクール構想を推進していくためには、教員のICT活用スキルをレベルアップしていくことも重要である。得意な教職員だけでなく、誰もが日常的に活用していくことができるよう、少人数、短時間で情報共有の場を設けるなど、日々スキルアップできるような取組を行った。

■準備するもの :

・プレゼンテーションソフト (OS標準)

毎週短時間・少人数の  
会議で活用例の共有



実践事例を  
全体で情報共有



教職員全員が授業教材を  
作成し、授業実践



ICT活用の得意不得意に関係なく少人数で集まり、週に1回程度情報交換会を実施。短時間で互いの活用事例を紹介し合ったり、今後の計画について情報共有したりする。



実践の良かった点や改善点を共有する。得られた情報は、クラウドで共有したり、各学年で勉強会をしたりして情報共有を行う。



学校で足並みをそろえるため、「〇月までに全員が教材を作成し、ICT端末を活用した授業を展開する」という目標を設定し、それぞれの進捗状況を共有するようにしている。

### ■アドバイザーからのコメント

全職員が集まって研修を設定することは、なかなか難しいと思います。15分程度でも、少人数で活用事例の紹介やちょっとした相談をする場を定期的に設け、さらにその情報をクラウド上に共有することで、実践が全体に広がっていきます。いきなり大きな実践でなく、すぐに誰でもできるようなことをスモールステップで進めていくことはとても重要です。

# 職員会議のペーパーレス化

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

働き方改革を進める中で、職員会議の要項を準備する時間の削減、会議の行い方の改善を目指している。

データを共有することで、印刷時間の削減や紙代の節約など、その効果はとて大きかった。また、ウェブ会議ソフトを活用することで、遠隔会議を行いながら会議資料等のデータが閲覧できるため、全員で職員室に集まる必要はなく、時間を効率的に使うことができるようになった。

■準備するもの

- ・ウェブ会議ソフト (OS標準)
- ・文書作成ソフト等 (OS標準)

## 職員会議の オンライン化



業務の効率化  
コロナ禍への対応 + 職員の操作スキル向上  
授業での活用イメージの明確化

データを共有することで閲覧する場所を選ばなくなる。またウェブ会議ソフトを併用することで、職員会議にも教室にしながら参加することができる。そのため、休校になった状況でも職員間の意思疎通を図ることができる。



クラウド上で資料を共有することで、印刷、製本の時間を短縮することができる。大規模校ではその効果は顕著である。

また、個人的に必要なページのみ印刷すればよいので、用紙やインクの節約にもなる。

### 第8回職員会議要項

11月11日 (最終編集: 11月12日)



実際の資料画面は視認性も十分であり、音声による説明と併せて見ることができる。

また、質問などもウェブ会議ソフトを通してできるので、検討・協議を行う場としての職員会議が成り立つ。

### 令和2年度 なわとび週間について

令和2年11月12日  
体育部

- ねらい
  - ・ なわとびを通して体を鍛え、寒さに負けず元気に遊ぶとする意識を高める。
  - ・ なわとびに興味をもたせ、個々の技術の向上を図る。
  - ・ 友達同士で教え合い、一緒に運動することで、望ましい人間関係の育成を図る。
- 期間
  - 2学期 11月30日(月)～12月23日(水)
  - 3学期 1月7日(木)～1月15日(金)
- 実施計画
  - ・ 11月30日(月)の朝会にて体育委員がなわとび週間のお知らせ、見本演技をする。

### ■アドバイザーからのコメント

授業での活用の前に、このようにいろいろな場面で体験をしていくことで、活用イメージやその便利さをきちんとつかむことができます。もちろん、業務改善につながることでですので、とてもいい取組です。

# データ共有の様々なメリット

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

研究協議の振り返りや行事の反省などを行う際には、係が用紙を作成・配布、それを回収・集計し、さらに集計したものを印刷・配布するという非常に手間と時間がかかる流れであった。しかし、データを共有することで時間と手間を省くだけでなく、計画や改善のスピードも向上させることができる。

■準備するもの :  
・学習支援ソフト (OS標準)

クラウドを活用した  
データ共有



・業務の大幅な効率化  
・業務の質の高度化



・教職員の働き方改革  
・学習活動への転用

<研究協議会後の低学年ブロックのまとめ> 10.27  
2年1組 先生 かけ算 (1)

- ★ 基礎となる見方・考え方を育む場面は効果的であったが
- 5の段と比べながら・つなげながら、九九の決まりを考えられた。
  - 単元全体を考えながら、5の段のときも同じ授業の流れで行っていた。(いくつか増える・基準量は変わらない)
  - つながりのある授業になっていた。
  - 「つなげる」「くらべる」のカードを、これまでも授業中に使用していた。
  - 本時も、自然な流れで使用することができた。

研究授業後の協議会において、共同編集のできるプレゼンテーションソフトを使って協議内容の共有を行うことで、印刷・配布をしなくても即座に全グループの協議内容を把握することができる。そのため、より多面的な視点で研究協議を深めることができる。

1 懇談内容  
19件の回答

学習面・生活面・家庭での様子を説明する。修学旅行等での心配事を  
学校生活 家庭生活 学習面 生活面 保護者が心配していること  
休校中や再開後の家庭での様子、学校での様子、修学旅行について

行事等の後に実施する「反省」をアンケート機能を使って集計。リアルタイムで回答結果を閲覧することができる。そのため、集約にかかる事務作業を大幅に軽減することができた。



職員への様々な連絡事項も、授業で児童生徒に資料を配布する要領で配信している。関連する資料も自由に添付できるため、多くの情報を全体で共有したい場合には効果を発揮する。また、相互のメッセージも共有できるので、ちょっとした質問と応答も効率的に行うことができる。

## ■アドバイザーからのコメント

職員会議の例と同じように、教員の働き方改革にもつながりますし、何よりもクラウド活用が完全に日常業務に溶け込んでいて、業務のDXが進んでいます。このような体験が、授業での活用をさらに進めることになります。

# 業務の情報共有にグループチャットを活用

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末内にあるチャット機能で校務分掌ごとのグループを作り、連絡事項を伝達する際にグループチャットを活用した。各分掌の担当者が、口頭で説明する時間を減らすことができ、最新情報を共有できるようになったため、各分掌の業務の時間短縮に繋がった。

- ① グループ作成
- ② グループチャットの活用
- ③ 連絡事項を伝達

■準備するもの :

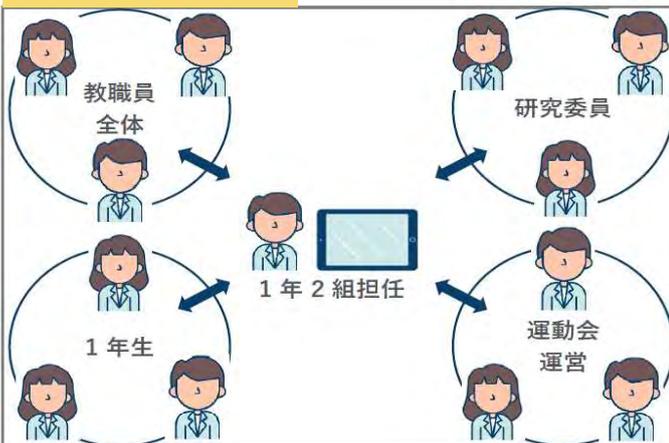
- ・チャット機能

校務分掌ごとにグループを作成

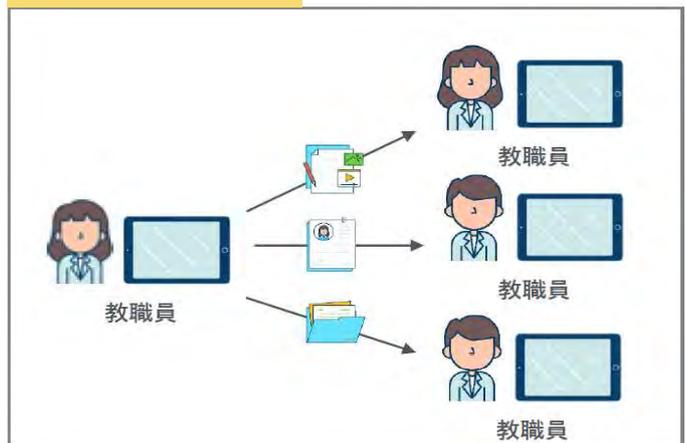
連絡事項を一度に伝達

口頭で説明する時間を削減  
最新情報を全員で共有

グループごとに情報共有



内容に応じて情報共有



「全国の学校における働き方改革事例集」(文部科学省)  
[https://www.mext.go.jp/content/20220221-mxt\\_kouhou01-000020595\\_1.pdf#page=154](https://www.mext.go.jp/content/20220221-mxt_kouhou01-000020595_1.pdf#page=154)

教職員全体や学年、校務分掌ごとに、チャット機能を活用することで、効率的に伝達できるようになる。口頭で説明する時間を削減し、最新情報を全員で共有することができる。

連絡事項の内容に応じて、様々な形式(テキスト、画像、URL、共同編集ファイルなど)で情報を共有することができる。

## ■アドバイザーからのコメント

チャット機能を使って連絡することで、素早くやりとりができ、常に最新の情報を共有することができます。また、チャットのやりとりが画面に残っているので、連絡の受け手側は途中の経緯も後から確認することができます。今まで会議等で口頭での説明をしていたことと比べると、メモを取る必要もなく、聞き逃しもなくなるので、教師同士のコミュニケーションの幅が広がります。

## 調査の事務作業を効率的に

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

職員会議（打ち合わせ）用の共用アクセス先を作成し、表計算ソフトで作成した入力用シートを貼り付けておくことで、全職員がいつでも同時編集できるようにしておく。

これまでの給食残量調査は、担任が紙にメモし、そのメモを給食担当が集計していたため、報告までに時間がかかってしまうことに課題があった。クラウド環境下においては、ICT端末を教室に持って行き、各担任がその場で入力をすれば、リアルタイムで残量を集計することができるようになり、教室から離れずにすぐ報告ができるようになった。

調査にかかる事務作業が大幅に削減され、業務の効率化を図ることができた。

■準備するもの

- ・表計算ソフト（OS標準）

表計算ソフトを使って  
職員間で共同編集



紙を配って、集めて、  
集計して…をDX



事務作業の大幅な削減  
業務の効率化



職員会議（打ち合わせ）用のアクセス先を作成し、入力用の表計算シートを貼り付けておくことで、全職員が入力用シート（共有）にアクセスできるようにする。

● 残量調査のお願い ●													
・ 4年生													
	3の1	3の2	3の3	3の4	3の5	4の1	4の2	4の3	4の4	4の5	合計		
主食の残量	5	2	2	3		1.5	0	2	1	1.5	18		
牛乳の残量	0	0	2	0		0	0.75	2	1	0.5	6.25		※半
給食を食べなかった人	1	1	1	1		1	1	0	0	1	7		
主食の残量	0	0	3	0		0	1	0	0	1	5		
牛乳の残量	0	0	2	0		0	1	2	1	0.5	6.5		
給食を食べなかった人	0	1	1	1		1	0	0	0	3	7		
主食の残量	1	3	0	2		0	0.5	1.5	0	1	8		
牛乳の残量	1	2	1	0		0	0.5	1.5	1	1	6		
給食を食べなかった人	0	1	0	0		0	0	0	0	2	3		
主食の残量	0	2	2	0		0.1	1	0	1	2.5	6.6		
牛乳の残量	0	2	1	0		0	1	2	0	2	8		
給食を食べなかった人	0	2	1	1		0	0	1	0	3	8		
主食の残量	2	3	2	3		0	0	2	0	1.5	10.5		
牛乳の残量	0	1	1	0		0	1	1	0	1	4		
給食を食べなかった人	0	2	0	1		0	1	0	0	0	3		

給食主任が表計算ソフトで集計表を作成し、各担任に直接入力してもらうようにした結果、大幅な時間削減に。

### ■アドバイザーからのコメント

打ち合わせに全職員が参加することが難しいときがあります。そのようなときでも、記録が残っていればあとから打ち合わせの内容を確認することができます。また、リンクを貼ることですぐに目的のデータにたどり着くことができます。これらの工夫を通じて、職員間の情報共有の促進が期待できます。

給食の残量調査は、共有された表計算ソフトを使うことでデータを入力する側も、集計する側も便利になります。担任が過去の残量を調べたり、他のクラスとの比較を行ったりすることも簡単にできます。これらの取組は、DX（デジタルトランスフォーメーション）の好例といえます。

# 離れていてもクラウドを活用して情報共有

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

コロナ禍でこれまで以上に学校間で様々な情報を共有して、迅速な意思決定を行わなければならない場面が増えた。これまでのように、ファイルをメールに添付して、誰かが集約してから共有するという進め方では手間と時間がかかり、情報共有が進みにくい。

そこで、表計算ソフトをクラウド上で共有化して、様々な情報をいつでもどこからでも入力できるようにした。こうした取組により、校長自らがクラウドを活用した共同編集の便利さを実感した。

■準備するもの :  
・表計算ソフト (OS標準)

表計算ソフトを使って  
全校長とクラウドで情報共有



時間・労力の  
大幅な削減



正確な情報共有と  
迅速な意思決定

運動会代替案調査 ☆ 共有

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール アドオン ヘルプ

100% 123+ デフォルト

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、各校長が運動会の実施有無、時期、感染症対策について情報共有している様子。

No	学校名	代替企画実施の有無	実施時期	企画の概要	感染症対策	来校保護者の
1		有	10月30日(金)	文化祭と併せて実施とし、午前中に各学年1時間を実施。レクリエーションを行う。	運動場での観客はマスクをして実施。観客は席を避ける様目を実施	検討中
2		有	10月22日(木)	学校祭として、鑑賞活動、創作活動、体育的活動をローテーションで実施	日頃の感染症対策の徹底。学年ごとにローテーションで密集しないよう工夫	来賓・保護者の来校は
3		有	10月28日(水)	学年ごとに2時間で4種目(綱引き・障害物R・8の	日頃の感染症対策。学年ごとに分ける。保護者の	保護者の来校はなし。
4		有りと言えば有り	10月22日(木)	文化祭を学校祭として実施。その中で全校ドッジボール大会を運動場で実施する。	日常の感染症対策のみ。	保護者の来校はなし。
5		有	10月22日(木)	学年ごと2時間5種目	日頃の感染症対策。学年ごとに分ける。	保護者の来校なし
6		有	10月8日(木)	15のレクリエーション種目を、体育館・武道場、空き教室、グラウンドで行う。	日頃の対策+競技会場を分散させた	保護者来校の予定なし
7		有	10月20日2年 21日1年 22日3年	学年ごとに知多フェスティバルを行う。午前文科系、午後学年レク(運動系を含む様々なゲーム形式のレク)	日常の感染症対策	保護者の来校はなし

これまででは、表計算ソフトに必要な事項を入力して担当者にメール添付し、担当者が集約していたが、各校長が入力することで一瞬で情報を共有することができるようになり、集約を待たずに各校長が判断材料として使うことができた。

## ■アドバイザーからのコメント

令和2年3月の休校時からこの活用を始めた。まず校長がクラウドを活用し、共同編集の便利さを体験したことは、とてもよかった。この形での情報共有が、いろいろなところで行われるきっかけとなり、授業での活用につながっていった。校長自身が使ってみて、そのよさをまず体験することに意義がある。

## 授業研究会におけるクラウド活用

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

授業研究後の研究協議会でもクラウド環境の共同編集機能を活用している。

これまでは、意見等を付箋に書き出し、拡大した指導案に貼って、付箋操作をしながら意見の共有や集約を行っていた。

プレゼンテーションソフトを活用すれば、共有化された紙面に参会者の意見がどんどん書き込まれていくので、それぞれの意見の共有にかかっていた時間が圧倒的に短縮され、協議の時間をしっかりと確保することができるようになった。

協議会終了後、授業者との共有もできて、これまで以上に研究が深まった。

■準備するもの

・プレゼンテーションソフト (OS標準)

授業研究会の  
オンライン化



参会者の様々な  
考えの瞬時共有



短時間でも深い研究協議  
共同編集の体験を授業で実践

授業を振り返りながら、各自が意見を共有化されたスライドにどんどん入力していく。

各自が入力したものを集約して、簡単にまとめることができる。また、他のグループとの共有も容易であり、事後に授業者が振り返る場合にも有効である。

### 協議の記録

- ・ を使うときと使わないときのメリハリができています。
- ・ 模擬授業のときに課題として挙がっていた、投票率が低いと国民の意見が反映されにくいという意見がしっかりと子供から出されていた。
- ・ フォームを使った投票を行うことで、どの意見の人が何人いるのかがひと目でわかるようになっていた。
- ・ 課題を考え、構成していく、生徒の意見を聞いて、つなぐ、深めるが良かった。
- ・ アウトプットが良かった。生徒の考えが深まった。

### ■アドバイザーからのコメント

教師自身がこのように体験を重ねることで、授業での活用のハードルはどんどん下がりますし、どのように活用するといいのかが、はっきりつかむことができます。

もちろん、これまでなら共有できなかった意見も確実に共有でき、授業研究の深まりも大きいです。



## 端末を使った授業の相互参観

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

ICT端末を活用した授業経験がない職員が多いので、具体的な授業イメージが浮かびにくい。そこで、ICT端末を活用する予定の授業をモニタに映して職員間で共有している。

また、空き時間等で授業を参観できそうな職員が教室へ自由に入出入りして、相互に授業を参観できる体制をつくっている。

- ① ICT端末を活用する授業の予定を共有する
- ② 職員が確認する
- ③ 授業を相互に参観して授業イメージをもつ

■準備するもの :

- ・ICT端末を活用する授業の予定表  
(モニタに映しても、印刷物の形でもよい)

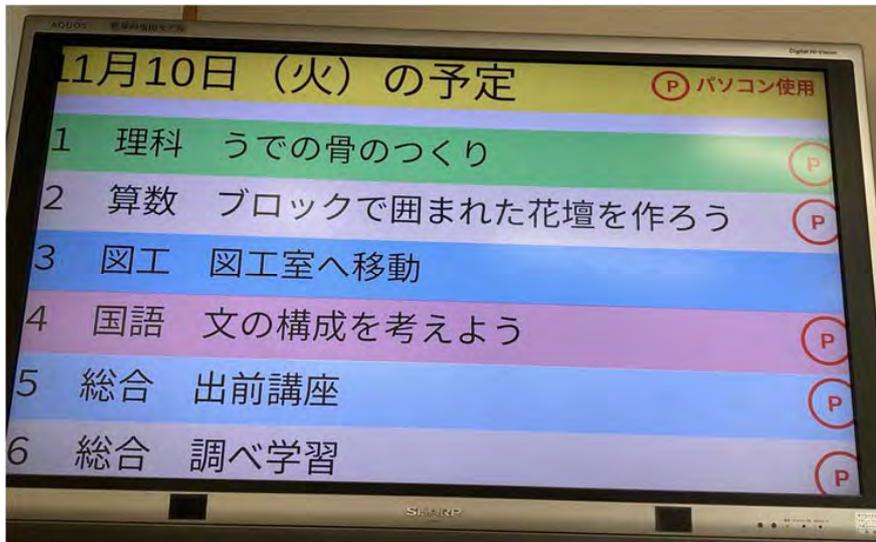
ICT端末を活用する  
授業の予定を教員間で共有



自由に参観し合う  
体制・雰囲気づくり



利活用の横展開  
自走する校内研修



ICT端末を活用する授業の予定をモニタに映して、教員間で共有している。モニタを見て、授業を参観できそうな教員が自由に入出入りしながら授業を参観する体制をつくっている。  
(Pの記号はICT端末を使うことを表している)

### ■アドバイザーからのコメント

児童生徒がICT端末を活用しながら学習活動を行う授業の情報を教員間で共有し、教員同士が自由に相互参観できる体制をつくることは、校内で端末の利活用を横展開していく上でとても有効な方法です。児童生徒にICT端末を活用させる指導を経験したことがない教員が多い(自らもそうした指導を受けたことがない)ので、単なる操作方法だけではなく、実際の授業の中で教員の働きかけや児童生徒の反応を確認しながら、「活用させる」指導を教員が主体的に学べる環境を校内でつくるとよいでしょう。

# クラウドを活用した職員研修の質の向上

■校種・学年 : 小学校以上

■活用の概要 :

初任者研修でクラウドを活用している。以前は、初任者の授業を研修担当者が参観して、事後に授業を思い出しながら研修を行っていた。

現在は、クラウド上のドライブに初任者の授業動画を置いて、振り返りに活用している。研修では、各自のICT端末からドライブにアクセスし、印象などに頼ることなく、正確に授業の様子を振り返ることができるため、成果や課題を的確に把握できるようになった。

この方法で何度も研修を繰り返すことで、普段の授業における初任者の授業改善の意識も高まっている。授業改善のスピードを大幅に向上させることができた。

■準備するもの :

- ・カメラ機能 (OS標準)
- ・クラウドストレージ (OS標準)

授業記録動画をクラウド上に保存



記録動画を基に指導の振り返り



授業改善に向けた効果的な研修



授業が終わったらすぐに撮影した授業記録動画をクラウド上に保存し、いつでも自分の指導を振り返ることができるようにしている。



初任者研修では、授業記録動画を基に自分の指導について振り返りを行う。挙げられた課題に対して、どのように改善をしていくのか指導を受ける。



授業改善後の様子。研修で指導を受けたことは改善され、教室全体に目線を送りながら声を発することができるようになった。

## ■アドバイザーからのコメント

クラウドを活用することで、手軽に動画の共有をできるようになりました。不確かな情報ではなく、正確な情報を収集し分析することで、適切に振り返りを行うことができます。これは、授業中の児童生徒の学習でも同じです。教師自身が身をもって体験することで、指導技術の向上だけでなく、授業づくりにも役立つものと思います。

# 教師同士、教師と指導主事がつながるプラットフォーム

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

域内の学校同士と教育委員会が情報交換できるオンライン上のプラットフォームを構築した。教育委員会等がプラットフォームを作成することで、教師同士や教師と指導主事でリアルタイムに横の関係を軸にしたコミュニケーションや情報共有を図れるようになった。

プラットフォームには、校長会、初任者研修、研究実証校の情報共有、マニュアル、トラブル解決策などのグループを作成した。それぞれのグループで情報を書き込んだり、資料を添付したり、オンラインによる会議を開催したりすることで、円滑に情報共有ができるようになった。

■準備するもの：

- ・学習支援ソフト（OS標準）の掲示板機能・コメント機能

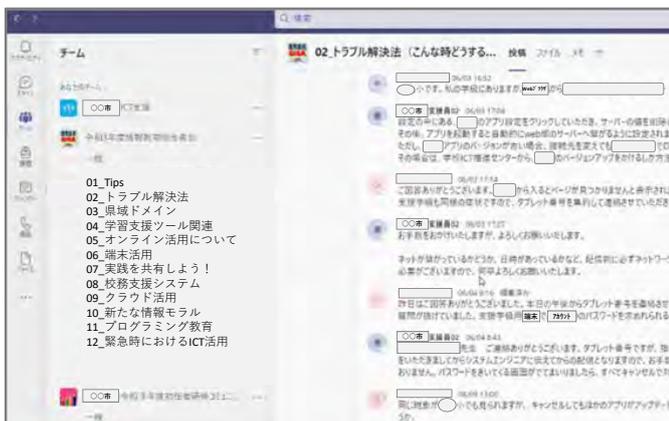
教師と指導主事が情報交換できるプラットフォームを作成



実践情報や質問を投稿してやり取り



横の関係を軸にしたコミュニケーションや情報共有



関係者は各グループの中で情報を共有している。トラブル解決法のグループでは質問を書き込むと、他の教師や指導主事が解決策を書き込んでいる。



情報共有以外にも、ファイルを添付したり、動画をアップロードしたり、リンクを貼り付けたりすることができる。



実際の活用の方法として、質問や投稿をしていない教師もプラットフォームの書き込みや回答などから様々な情報を収集することができている。

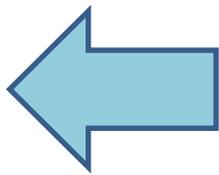
## ■アドバイザーからのコメント

ICT端末を有効に活用するために、教師同士がつながることが重要です。自治体内の教師と指導主事という限られたコミュニティのため、密接なやり取りを可能にしています。ICTの使い方に困った時に得意な教師や指導主事に聞き、解決のヒントが得られます。

また、プラットフォームのグループを利用して、研修や会議の資料を添付すること、録画している会議の動画を見返すことなどもできます。さらに、どの学校でも使われるファイルや資料などを共有することで働き方改革にもつながります。

# 慣れる・つながる活用事例 一括版

(令和5年12月18日時点)



他の事例は[こちら](#)から

1\_GIGA に慣れる

ー導入にあたって

1\_GIGA に慣れる

ー使ってみよう

2\_教師と子供がつながる